

ふりがな 氏名	いとう しおり	都 道 府 県	神奈川県	
	伊藤 栞			
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ One Young World 2018 ハーグ大会 日本代表</li> <li>・ AIG 高校生外交官プログラム事務局 カウンセラー</li> </ul>			
私のESD活動	ステレオタイプのない社会づくりのためのインプットとアウトプット			
関心・活動のSDGs				

## 活動の概要

2016年、AIU 高校生プログラム(国際機関や米国国家機関の見学とプリンストン大学で米国の高校生と“人間交流”をするもの)に参加しました。人種のるつぼのアメリカで日本では見られない多様性を学んだ他、自身の米国の印象と現実が乖離しており固定観念を抱いていたことに気付いた。現在ではカウンセラーとして柔軟的なグローバルリーダーの育成に携わっている。

2017年、全国の高校生が集って理想の日本を実現するための政策立案コンテストに参加した。奨学生として出場していた学生が貧困層の育ちで、意欲があっても時間的・金銭的な理由で勉強ができないことや、そもそも学ぶことに対する動機を持たない子どももいる現状を知った。教育格差に対して問題意識を抱ききっかけとなった。

同年に参加した模擬国連をきっかけに難民問題に関心を持ち、前述のコンテストでメンターとしていらっしゃった元国連職員の方に招待していただいて東洋英和女学院大学の生涯授業に通った。また、難民支援団体や在日アフガニスタン難民の方などを訪問し、出生地によって大きく生きる境遇が異なってしまうことを学んだ。またアウトプットとして、当事者に近い視点を持つために2018年8月に Learning for All にて東京都の貧困層の子供たちに学習支援を行う。また、2018年10月に One Young World という世界大会に日本代表として臨む。190以上もの国々から若者が集まる場で「ステレオタイプのない社会」を創造するためにできることを話し合う。

・「AIG 高校生外交官渡米プログラム」 <http://www.highschooldiplomats.org/contents/us-hsd.html>

・「NPO 法人 Learning for All」 <https://learningforall.or.jp/>

## 今後の活動の展望と周囲や社会への還元

私は大学4年間を次のように定めている。1年目は広い分野での俯瞰的な吸収とその発信の時期、2年目は創造したい価値を創出するための準備期間、3・4年目は自身が発信者となって自分だから提供できるものを主体的に発信する期間だ。大学卒業後は3・4年目での取り組みの影響範囲を広げる形で社会に貢献していきたい。

事実、ただ漠然と地球規模で活躍できる人になりたいという理想を抱いているだけで、まだ将来何の問題に対して焦点を当て、どのようなアプローチ方法で解決に寄与して行くのか決断できていない。しかし、どのような分野で活動するとしても、ESDの理念は重要であると考えます。世界には環境・貧困・人権・平和・開発など多岐に渡って地球規模の課題がある。地球に存在する生物が未来まで営みを続けるために、これらの課題を一人一人が「自分ごと」として問題を捉え、各々できることを考えて実践していく姿勢を持つことが、持続可能で万人にとって住みよい社会を創造していくことに繋がる。そして、その姿勢をESDで培うことができる。上記の将来設計を遂行する上で、“think globally, act locally”な思考を持つ人々を増やしていきたい。